

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	学力の定着・学習意欲の向上を図る
目標（評価規準）	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりが主体的に活動し、自己肯定感のもてる授業実践を行う。 ○生徒一人ひとりが「基礎基本の定着」が実感できる授業づくりの推進。 ○家庭学習の定着のため、具体的な取り組みを全職員共通理解の元すすめる。 ○授業実践を工夫して行い、教員一人ひとりの授業力向上を目指す。 	
重点に係る現状 設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ○授業力・教師力を向上させることで、生徒にとって「わかる・楽しい授業」が、主体的な授業参加・学習意欲の向上につながる。 ○生徒の家庭学習の取り組み意識には課題があり、全職員共通理解の元すすめる必要がある。 	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に学ぶための授業づくりの工夫・改善をしている設間には100%が肯定的回答をしている。 ○基礎・基本の定着ができる授業・学習指導が行われている設間には93%が肯定的回答をしている。 ○ITやICTを活用して生徒に丁寧に指導している設間には93%が肯定的回答をしている。 ○生徒に家庭学習の大切さを教え取り組むための指導・工夫をしている設間には71%が肯定的回答をしている。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に学ぶための授業づくりをしている設間には、生徒の84%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は65%にとどまった。 ○基礎・基本の定着ができる授業・学習指導を意識している設間には、生徒の88%が肯定的回答をし保護者の肯定的回答は69%のとどまった。 ○ITやICTを活用して丁寧に指導している設間には、生徒の76%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答50%にとどまった。 ○家庭学習の大切さを教え、取り組む指導や工夫をしている設間には、生徒の75%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は48%にとどまった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<ul style="list-style-type: none"> ○各設間において、教職員と生徒については肯定的な回答が高い割合であったが、保護者の肯定的回答とは差異が生じた。 ○家庭学習については、毎年、昨年度、生徒の肯定的回答40%、保護者肯定的回答48%だったが、今年度の生徒の肯定的回答が75%になり高い割合となった。 *今年度もコロナ感染拡大防止のため、保護者の来校機会がほとんどなく、「わからない」「判断できない」と回答した割合が平均2.2%にのぼり、例年より高かった。 *こんな時だからこそ、学校だよりや学年・学級通信などで丁寧に学校状況を発信していく必要がある。
学校関係者評価結果	コロナ感染拡大防止によるまん延防止等重点措置適用中のため実施せず
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の教師力・授業力向上のため、積極的に研修等に参加を促す。 ○どんな状況であっても、確実に学習環境を整え、生徒にとって身につく、わかりやすく意欲的に取り組めるための授業提供をしていく。 ○保護者が来校せずとも、学校での学習状況が把握できる取り組みを行い、定期的に通信の発行を行う。 ○小学校とも連携し、9年間を見通した教育活動を進めて行く。

本年度の重点	2	「生きる力」「豊かな心」を育成する指導の充実
目標（評価規準）	<p>○生徒の生きる力、豊かな心を育て、その成果として主体的に生活していく姿勢を持たせる。</p> <p>○生徒一人ひとりに居場所があり、仲間と協力して落ち着いた生活を送ることができる。</p> <p>○問題の未然防止、早期発見・早期対応・早期解決を図り、一人ひとりが大切にされていることが実感できる学校づくりを進める。</p>	
重点に係る現状 設定理由	<p>○日常生活だけでなく、行事や部活動においても充実した生活が送れるよう学校環境を整えていく。</p> <p>○いじめ防止委員会・適応サポート委員会などを適切に機能させ活動を充実させていく。</p>	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>○「総合的な学習の時間」「道徳」などの教育活動を通して、「思いやりの心」「他者を尊重する心」が育っている設問には100%が肯定的回答をしている。</p> <p>○挨拶・礼儀など基本的な生活習慣が身につく指導をしている設問には、91%が肯定的回答をしている。</p> <p>○生徒を理解し、生徒との信頼関係を築けている設問には、100%肯定的回答をしている。</p> <p>○問題行動・いじめ・欠席の多い生徒への対応など、早期発見・早期対応・早期解決に努めSCなどを通してきめ細かい対応をしている設問には93%が肯定的回答をしている。</p>
各アンケート等の結果	<p>○総合的な学習の時間や道徳などの教育活動を通して「思いやりの心」「他者を尊重する」など相手に思いやりをもって接している設問には、生徒の85%、保護者の74%が肯定的回答をしている。</p> <p>○挨拶・礼儀など基本的な生活習慣を身につける設問には、生徒の92%、保護者の84%が肯定的回答をしている。</p> <p>○先生と話しをしたり気軽に相談できる、生徒と信頼関係を築けている設問には、生徒・保護者とも70%が肯定的回答をしている。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○各設問において、多少、生徒・保護者の回答に差異が生じた。</p> <p>○「思いやりの心」「他者を尊重する」設問や挨拶・礼儀の設問では、生徒・保護者とも肯定的回答が多かった。</p> <p>○相談できる先生、生徒との信頼関係を築く設問では、生徒・保護者とも70%の肯定的回答については、もう少し高い評価を期待していたが70%にとどまった。</p> <p>*コロナ禍にあって、校内の生徒の生活環境・生活秩序の維持を教育活動の中で確立したく努めたが指導に改善の余地がある。日常的な教師と生徒との関係づくりを更に進めたい。</p> <p>*携帯（スマホ）に絡むトラブルが数件発生した。速やかな指導により早期に解決したが、起こる前の指導を徹底したい。</p>
学校関係者評価結果	コロナ感染拡大防止によるまん延防止等重点措置適用中のため実施せず
最終改善方策	<p>○どの設問にも比較的高い評価をいただいているが、更に生徒一人ひとりに確実な居場所があり、誰もが楽しく学校生活を送るための学習・生活環境を整えていく必要がある。</p> <p>○SNSによるトラブルが数件あった。保護者にも理解を求め、使用方法などについて講演会などの実施とともに日常的な指導が必要になる。</p> <p>○小学校とも連携し、「心の教育」の推進を図る。</p>

本年度の重点	3	家庭・地域と学校との連携の推進と発展
目標（評価規準）	<p>○PTA活動・学校評議員会・青少年育成団体などを通して、家庭・地域との連携を更に進める。</p> <p>○学校の教育活動が理解されるよう市民センターに学校だよりの掲示を継続し情報発信に努める。</p> <p>○小学校とも連携し、相互に授業参観・授業研究会などに参加し一小一中の良さを生かした連携を強化していく。</p>	
重点に係る現状 設定理由	<p>○地域に開かれた地域の学校のため、参観授業などを継続して実施し、また、地域行事にも職員・生徒を積極的に派遣していく。</p> <p>○学校だよりなどの通信における内容を充実させ学校に対する理解を深める。</p> <p>○小中の連携を更に充実させ深めていく。</p>	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>○保護者会・PTA活動・体育祭などを設け学校公開に取り組んでいる設問には、79%が肯定的回答をしている。</p> <p>○登下校時の挨拶や地域行事を通して、地域への感謝の気持ちを持たせる設問には、50%が肯定的回答をしている。</p> <p>○学校からのお知らせや配布物などから学校の様子が伝わっている設問には85%が肯定的回答をしている。</p>
各アンケート等の結果	<p>○ボランティア活動や地域行事に参加し社会の一員として自覚をもつ設問には生徒の42%の肯定的回答にとまった。</p> <p>○保護者会・PTA活動・学校行事など積極的に学校公開に取り組んでいる設問には保護者の76%が肯定的回答をしている。</p> <p>○登下校時の挨拶や地域行事を通して地域の方へ感謝の気持ちをもう設問では、生徒の83%保護者の63%が肯定的回答をし、生徒・保護者間で差異があった。</p> <p>○学校からの「お知らせ・配布物」から学校の様子がわかる設問では、生徒の73%、保護者の77%が肯定的回答をしている。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○ボランティア・地域行事への参加については、コロナ禍で行事そのものの実施がなかった。</p> <p>○学校公開においても、コロナ禍のため、保護者の来校機会がほぼなく、最低限の公開になってしまった。</p> <p>○来校機会が少ないため、学校の様子を通信などで伝えていたが、伝わりきっていない部分もあった。</p> <p>○小学校との連携した教育活動も今年度は停滞気味であった。次年度以降、更に連携を進め、地域としての学校づくりを進めて行く。</p>
学校関係者評価結果	<p>コロナ感染拡大防止によるまん延防止等重点措置適用中のため実施せず</p>
最終改善方策	<p>○家庭・地域への学校教育活動への理解と協力の面では、例年、連携の強さは、本校にとって大きな強みである。が、コロナ禍の影響により来校機会が減り、理解を求めずらい面もあったが、今後も地域・保護者に信頼され、支援していただけるために、様々な機会を通して連携を図っていく。</p> <p>○小学校との連携を継続し、本年度はなかなか出来なかったが、一小一中の特徴をいかし取り組みを継続し、小中一貫の視点に立って地域の学校として教育活動をすすめていく。</p>